

# 教会とコンピューター

No.34 March 1998  
発行 コンピューター聖書研究同好会

パソコンについて知りたい方  
パソコンを教会で使ってみみたい方  
パソコンをもっと活用したい方  
パソコンで聖書の研究をしたい方

本誌はあなたのお役に立ちます

## 聖書地図ソフトが出ます！

「聖書の達人」をリリースしてから一年と数ヶ月が経過しました。とても使い易く、役立つソフトだ、と多方面よりご好評をいただき、また、多くの方にご利用いただいておりますことを設計者として嬉しく思っております。ただ、何度か耳にした苦情は、地図機能がお粗末で、使い物にならない、ということでした。実は、「聖書の達人」の開発を始めたときには、地図を載せる予定はなかったのです。しかし、「新聖書大辞典」に付属していることでもあるし、画像があるだけでも何かの足しになりはしないか、という意見があり、結果的には現在のような中途半端な載せ方になってしまったのでした。いのちのこば社にも、地図に対する不満は多く寄せられ、早い時期から地図専用のソフトを作る必要を認識していたようでした。そこで、この夏を目途に、本格的な聖書地図ソフトを製作することになりました。

ソフトの開発は、データ作りをCBECのマック班でもある、ミニストーリーテスの松村識師が、プログラミングを「J - ばいぶる1st」「聖書の達人」のプログラミングを担当したアーク・コーポレーションが、設計監修を小生（堀川寛）が行うことになりました。

### 概要

聖書地図ソフトと言えば、本誌でも第1号で紹介した、Logos社のBibleAtlasがあります。もちろん英語ベースですが、既に多くの方がお使いのことと思います。今回リリースする聖書ソフトも、大部分は同じ



データを使います。同じ物を使って著作権は大丈夫なのか？と心配されるかたもおられるでしょうが、実は、BibleAtlasのTopical Map（左図）の部分は、シモン・ジェンキンスという人が作った地図を使っており、日本でも、「わかりやすい聖書ガイドマップ」としてCS成長センター（いのちのこば社）という所から発売されていたのです。Site Map（下図）の方はLogos社のオリジナルで、特別な処理が施された精緻な物ですので、これを使うことも、またマネすることもできません。聖書地図としての有用性という点では、Topical Map、すなわち聖書のストーリーに即した地図のほうがはるかにありますので、この聖書地図ソフトでは、もちろんSite Mapもできるだけ精密な物を作ろうと思いますが、基本的にはTopical Mapに力を入れて作り込んでいこうと思います。

### 三つの検索

このソフトの目玉は、何と言っても三つの検索エンジンを持っている、ということです。その三つとは、地名 聖書箇所 ストーリー、のことです。地名から検索すると、その地名が掲載されている地図に飛ぶことができます。聖書箇所から検索すると、その箇所に含まれている地名と関連する地図を探します。ストーリーでの検索とは、



Topical Mapのタイトルから選ぶことを意味します。

### 写真が付きます

このソフトのもう一つの目玉は、写真データ（もちろん最近のものですが）の付属です。約300枚の美しい写真と共に、聖地のイメージを膨らませて下さい。

### 今後の予定

今年の夏までには発売したい、ということ以外、名前も値段も未定です。良いソフトがスムーズに開発できるようお祈り下さい。そして安く上がることも。

< 編集長 >



「J- ばいぶる」改良道標 '98 能城一郎

- 「JB2 - 32ビット版」その2 -

JB2は、1996年6月1日にVer 1.0がリリースされ、1997年9月にVer1.5がリリースされました。現在、32ビット版へ改良しています。「J- ばいぶる」開発の当初から、私たちはPCによる聖書研究の意義、将来性を知っている先輩の方々とのお会いを期待していました。その先輩方との対話からより良いソフトに改良して行きたいとの願いをもっていました。私たちが最初に会ったのは、世良田湧待先生でした(本誌第7号)。次いで、大山武俊先生(本誌第10-12号)でした。両先生方から、「J- ばいぶる」への貴重な改良意見と励ましを頂きました。JB2 Ver 1.0をリリース後、JB3RDの開発をしている所に、突然と電話が鳴りました。「JB2に興味がありますので、お会い頂けませんか? 中村和夫と申します。」と穏やかな声でした。中村先生が遠方の福岡から来てくださり、お交わりが始まりました。そして、参考文献 ~ を私に下さいました。

まさに、目から鱗が落ちる体験でした。この中村先生の文献のお陰で、私はJB2ユーザーの皆様インターネットで提供することが出来ました。

もし、先生との出会いがなければ、JB2の「グラマティカル・コンコルダンス」のプログラミングの方向がまだ見えていなかったことでしょう。

中村先生とお交わりが進み、先生に「JB2 32ビット版」のアドバイザーになって頂くことが決まりました。今年、中村先生は古稀を迎えられ、その記念論集が発刊されます(参考)。先生はこの記念論集に「J- ばいぶる - パソコンによる日本語聖書研究の幕開け -」執筆して下さいました。

JB2は今後どのような改良が加えられるのか、ユーザーの皆様には、ぜひ呼んで頂きたい文献です。また、最近、PCによる聖書ギリシャ語の「テンス研究」が始められていますが、「テンス」研究をする方には、中村先生の初

期の仕事である参考文献 ~ の「動詞の形時制(テンス)研究 - 新約聖書ギリシャ語原典における -」を熟読されることをお勧めします。日本語で読める数少ない貴重な聖書ギリシャ語文法の研究です。

中村先生は、戦後間もない頃から英文タイプライターの名手で、当初はギリシャ語タイプライターで、その後はマックパイブルでお仕事してこられました。JB2登場以前は、私たちも使っていたBWも見て来られました。大学の神学部では、専門の「新約学」の他に、コンピュータ講座も担当しておられます。

私が電子メールで会話やデータ通信する、織田昭先生(1927生、大阪聖書学院)に次ぐ高齢者です。先生は丁度私の父と同じ歳で尊敬と親しみが込み上げているのですが、その心のうちには、私以上に「PCによる聖書研究」発展へのヴィジョンの火が燃えています。まさに、旧約聖書のカレブの姿(ヨシュア記14:6-12)を、私は主によって見させられています(カレブの歳には、まだ、14年程若いのですが)、中村先生との改良会議の席で、マック・パイブル、パイブル・ワークス、アコードダンス(Mac)を超えた、日本語で使える世界最高峰のJB2にすることで意見がまとまりました。これに向けて、現在改良を進めています。

- (1)1998年6月「織田昭辞書搭載、32ビット版 Ver 1.51」
- (2)1998年9月「JB2 - 32ビット版 Ver2.0」その後更に改良を加えて行きます。

参考文献 中村和夫『動詞の形時制(テンス)研究(一) - 新約聖書ギリシャ語原典における -』西南学院大学神学論集 1965年3月 中村和夫『動詞の形時制(テンス)研究(二) - 新約聖書ギリシャ語原典における -』西南学院大学神学論集 1966年6月 中村和夫『動詞の形時制(テンス)研究(一) - 新約聖書ギリシャ語原典における -』西南学院大学神学論集 1967年3月 中村和夫『原典釈義・主の祈り』西南学院大学神学論集 1968年12月 中村和夫『原典解説・主の祈り(続)』西南学院大学神学論集 1968年12月 中村和夫『Imperfect テンスの翻訳』西南学院大学神学論集 昭和50年(1975).12月 中村和夫『a modern Greek Transration』西南学院大学神学論集 昭和55年(1980).9月 中村和夫『ヨハネの黙示録に関する一考察』西南学院大学神学論集 1990(平成2年).9月 中村和夫『ヨハネの黙示録』新共同訳「新約聖書注解」日本基督教団出版局 1991年2月 中村和夫『J- ばいぶる - パソコンによる日本語聖書研究の幕開け -』西南学院大学神学論集 第55巻 第1・2合併号 中村和夫教授 古稀記念号 1998年3月 能城一郎『グラマティカル・コンコルダンスを活用した新時代の「新約聖書ギリシャ語文法書」の作成作業「大完了形」とルカ福音書8章2節の翻訳をサンプルに』1997年9月1日 初版 [http://gospeljapan.com/cbec/s\\_room.htm](http://gospeljapan.com/cbec/s_room.htm)



# INTERNET 未来予想図

gospeljapan ウェブマスター 宮崎光世

## 日本のクリスチャンにとっての インターネットって何だったっけ？

インターネットは「少数派」のためのメディアだ、といわれたりします。現在のインターネットは手放しでその言葉を受け入れられる状況では決してありませんが、そういった効果があるのも確かです。例えばもの凄く精密なネジを作ることができる職人さんがウェブサイトで自分の腕を宣伝すれば、それを必要とする会社は海を越えてもやってくるでしょう。いくら大企業が新聞に大きな広告を打ったとして、まああのネジしか作ることができないなら、一人の職人さんが契約を勝ちとることもありうる、それが情報の革命とよばれる「変化」の一つです。

日本のクリスチャンは、これまで1%という少数派の立場や物理的限界の中で振る舞い、それに適応してきました。それは苦しい戦いでした。そして、インターネットが登場したとき、確かに何かが変わる予感がしたのではないのでしょうか？

### 外から見たときに

日本のクリスチャンを外から見たときに、何がどう変わったか考えてみましょう。印象や具体的な捉えかたの変化はいろいろあると思いますが、まずその変化の原因として、クリスチャン、キリスト教がとても近くなった、身近になり、多く感じられるようになったということがいえるのではないのでしょうか。今、ネット上でキリスト教関連の情報を引き出すのはとても簡単です。検索エンジンで「キリスト教」と入力してボタンを押せばいいのです。神父さんや牧師さんのメッセージも、Q&Aも、何だっけいつでも手に入ります。つまり以前よりはるかに多くの情報を得ることができるようになります。クリスチャンにメールすることも簡単、わからないことがあれば掲示板に書き込めばいい。今、私たちは、思い立ったその日にクリスチャンでない友人を世界中に散らばったクリスチャンの友人に紹介し、ネット上で会話することさえできます。

さあ、そんな時代の「証し」や「振る舞い」はどんなものになるのでしょうか。この問題について結論をここで述べられるとは到底おもえませんが、ただ、ネットにあふれた情報やメールの利便性等～情報の革命が何を变えたか～を考えると、以前に比べて交わされる言

葉や交流が非常に多くなっているということは間違いないのではないのでしょうか。(特に社会人にとっては格段の差があります) 昼休みをつぶして祈り、長いメールを書いて友人に送れば夕方にはその返事が来るでしょう。そしてそれを何人かのグループで行うことも可能なのです。

### ネジ職人

で、クリスチャンはネット上でどう振る舞うのがいいのか、そんなことは私にはわかりません。ただ、放っておいても「変化」は訪れるでしょう。教会で椅子に座り説教を聞き賛美している群衆の中にいる一人一人が、実は驚くほど「一致する部分」を持ちながら、驚くほど「違う部分」をもっていることを世界中で確かめあう時代が来ようとしています。時にそれは摩擦になるかもしれません。が、そこで僕が思い出す聖書の言葉はこうです。教会はキリストを頭とする一つの体であり、わたしたちはその一つ一つの器官である、と。そう！インターネットという神経が機能していれば、私たちはどこにいても一つの器官であることができる(1)のです。これまで会社や学校等で孤軍奮闘していた人も、もう、一人ですべてのことを言う必要がない。他の器官(教師や友人)と協調して動くことができるのではないのでしょうか。(2)以前にホームページの内容について、なんでもちょっとずつ入っている幕の内弁当一つより、いろいろなごちそうを持った人が集まってわけあうほうがいい、と書きましたが、ここでも同じようなことになっているのかもしれない。

### 最後に

最後に、「そして」クリスチャンは多数派になれば良いのでしょうか？いや、多数派になったとしてもまああのネジでは職人さんに負けてしまう時代でしたよね。

- 1)もちろん問題点はあります。たとえばその神経であるインターネットがまだ無茶苦茶細いとか、やっぱり金と時間がかかるとか、言葉でのコミュニケーションが難しいとか・・・
- 2)もともと質問する方としても足の指に質問したら足の指として答えて欲しいんですよね。他の器官にも簡単にアクセスできるわけですから。

kosei@gospeljapan.com

<http://www.gospeljapan.com>

# パソコン教会活用術

## マルチメディアのコンテンツを作る

松村 識

### ことのはじめ

それって見るものでしょ。自分で作れるなんて考えてもいない。そもそも牧師が教会で何に使う？個人で何に使う？最近、聖地旅行をする人が増えてきました。かく言う私の父も聖地旅行でビデオを取りためてきましたが、延々とビデオを見せられてもなんだかなあという気がします。また、宣教師たちが宣教報告に教会を巡る時に、昔ながらのスライドだけではなく、ビデオなども使うケースも現れてきています。そんなとき、困るのは、編集も何もないテープを延々と見せられることです。またテープを編集するのは大変です。また、宣教師が時間の制約の中で十分に教会を周り尽くせないという問題があります。そこで考えたのは、マルチメディアタイトルを自分で作ってしまえ！ということです。そうすれば、ビデオの編集やプレゼンテーションの配布などが可能だからです。ホームページの作成、画像についての情報はたくさんありますが、動画を扱うための情報はあまりありません。そこで特に動画を扱う方法について説明します。

### テープにシステムを構成するには

どうしても必要なものはビデオキャプチャーカードと少しゆとりのあるハードディスクです。ビデオキャプチャーカードはMacの場合、標準で付いているものもありますし、DOS/Vでも数万円で買うことができます。ハードディスクは最低でも2GB位の空きを用意しなくてはなりません。できればIDEではなく、SCSI規格のものの方が有利です。それとホームページ作成ソフトです。マルチメディアタイトルを作成するソフト(Directerなど)はとても高くして手軽にできません。ホームページ作成ソフトでHTML書類として作れば、フリーウェアのプラグインで動画を再生でき、また、MacでもWindowsでも再生可能です。これに大きなコンテンツを保存配布するためにCD-Rがあればなお良いでしょう。CD-Rのメディアはとうとう200円を切るまでに急激に下がりました。お買い得と言えるでしょう。

### HTML書類で扱える動画の規格

動画の規格は数多くありますが、HTML書類で使え

るのは、Apple社のQuickTimeMoviesやWindow AVI movies、ビデオCDで使われるMPEG Moviesが一般的です。中でもQuickTimeは、MacでもWindowsでも使え、最新のDV規格(デジタルビデオカメラの規格)、MPEG規格、音楽規格のMIDIなど、マルチメディアの総合規格として注目株です。HTML書類で扱うためには、次の拡張子が必要です。

QuickTime .mov Window AVI .avi MPEG .mpg

### 圧縮の規格

圧縮なしの動画をパソコンに取り込んだ場合、たとえば、640×480dpiの動画(テレビの画面相当)を取り込むと、1秒間に数十MB、たかが1分程度の動画でも数百MBもの容量が必要で、ハードディスクは追いつきません。そこでここでパーソナルな動画、それもHTML書類で扱うには、320×240の動画(テレビ画面の1/4相当)が使いやすいサイズとなります。これなら、なんとか扱える範囲です。それにしても圧縮なしにこれを使うととても大きなファイルになりすぎて扱い切れません。圧縮をCodec(コーデック)といい、圧縮をかけることをencode(エンコード)、解凍することをdecode(デコード)と言います。QuickTimeの場合について説明しますが、HTML書類にするためには、シネパックやSorenson CodecというCodecがありますが、きれいな動画で圧縮率がいいのはなんといってもMPEGです。MPEGファイルを作るには、ハードウェアCodecとソフトウェアCodecがあります。ハードウェアCodecは、専用のカードを使うので早いかわりに高い、ソフトウェアCodecは安い(といっても個人で使うには高価)かわりに遅いというイメージがありますが、パーソナル用途のソフトウェアCodecものを探せば決して高いものではありません。Mac用では独ASTARTE社(<http://www.astarte.de>)の240dpiで一分間のムービーが約10MBに収まります。画質も満足いく画質でノイズなどもほとんど入りません。雑誌の付録などについているサンプルムービーなどは比較にならないほどきれいです。実際にお目にかけることができないのが残念ですがほんとうにきれいです(近日中にミニストーリー・テトスのHPにアップします。<http://www.jade.dti.ne.jp/~sama/titus>)。これで、動画の扱いも容量少なくてきれいにできます。

みなさんも試してみてもいい。ただし、まだまだ情報が少なく、インターネットで情報をかき集める他は試行錯誤しかないようです。参考になる図書もなく唯一お勧めできる図書が次の本です。

田中和明、手塚忠則共著、らくらくQuickTime入門、カットシステム

sama@jade.dti.ne.jp <http://www.jade.dti.ne.jp/~sama/>

# COMPUTER TECHNIC

堀川 寛

## Windows CE 2.0

### 本格モバイル時代の担い手

昨年大々的に(カシオなどが)キャンペーンをして、一気にブレイクするかと思われた WindowsCE ですが、様々な理由で大したブームにもならずいつしか話題からも消えていきました。しかし、Microsoft や打倒ザウルスに燃える他のパソコンメーカーが、このまま黙っているはずはありません。いよいよ WindowsCE が大幅に改善されてリリースされました。改善・強化されたいくつかのポイントを取り上げましょう。

#### モノクロからカラーへ

文字を扱うだけならモノクロのほうがバッテリーの消費も少なくて良いのですが、ホームページを見たり、写真付きの電子メールをやりとりする時代なので、やはりカラーでなきゃいけません。今回いっせいに発表されたモデル(NEC、日立、ヒューレット・パカード)は、NECを除くとカラーモデルのみで、両方出しているNECにしても、カラーが主力になる、とみえています。

#### TrueType フォント

WordでもExcelでも、複数のフォントを使うのは当たり前なのに、前のバージョンではフォントの指定ができませんでした。ですから、Pocket Word といっても、ほとんどテキストエディター状態だったので、今回からはちゃんと TrueType フォントが使えるので、プリントする前にいちいちフォントだけデスクトップパソコンで指定してやる、なんて面倒なことはなくなります。

#### 電子メールのファイルアタッチ

これができなかったこと自体不思議です。出先で Excel のデータをやりとりできないのなら、モバイルパソコンの意味がありません。ファイルアタッチ機能を使えば、自分のメールサーバを利用して、ファイルのやりとりや更新ができ便利です。

#### LAN 対応

これまたあって当たり前の機能と言えます。「LAN が使えるからパソコン」と言えるのです。前のバージョンでは、データのやりとりはかったるいシリアル

ケーブルに頼っていましたが、これからは LAN 接続で一発ファイル更新が可能です。LAN の端末としても使えますね。

#### キーボードの拡大

小生が CE1.0 の時にぜんぜん買う気がしなかった最大の理由は、キーボードの小ささにありました。サイズを優先し過ぎて、キーが小型の電卓ほど大きさを、ブラインドタッチどころか、一本指で押してもミスタッチをしてしまうようなお粗末な物でした。今回は各社ともキーを大きくし(これは OS のバージョンアップとは無関係ですが)、ブラインドタッチが可能になりました。

#### バッテリーの強化

ディスプレイがカラー表示になることで、当然バッテリーの負担も重くなります。そのため、各社ともハイパワーで長持ちする「リチウムイオンバッテリー」を採用しています。カタログ上は 10 時間使えることになっています。電源のないところでの作業は、小生の場合最長 5 時間ぐらいなので、十分です。また、リチウムの良いところは、従来のニッカドに比べ、使っているうちに充電量が減っていく、いわゆる「メモリ」障害が起こりにくいことです。バッテリー様のご機嫌を伺うことなく充電に動かしめます。

これだけ良くなった WindowsCE ですが、問題がないわけではありません。最大のネックは値段です。定価が安い物(カラー)で ¥120,000 もします。販売価格は 10 万円を切るでしょうが、これでは手が出ません。本当に「ポケットパソコン」を普及させたいのなら、せめて 5 万円台にしてもらいたかったです。

結論としては、やっと「使える」モバイルが出たなあ、という感じですが、値段が高すぎるので後半年か一年待って、今回出た物が半額以下になったら買おうと思います。ただ、カシオやコンパックなど、他社も追従してくることは明らかですから、5 万円台になるのもそう遠くはないかもしれません。乞うご期待ですね。



NEC Mobile Gear II カラーモデル



# MAC NEWS

本田 勝宏

## 家庭内 LAN ~ その2 ~

前回は、EthernetでLANを組むことにした、ということまで述べました。普通、2台のMACをつなぐのに、何もルータを経由させる必要はないのですが、これにはちょっとした訳があります。それは、インターネットにつなぐことを考慮しての選択でもあったのです。

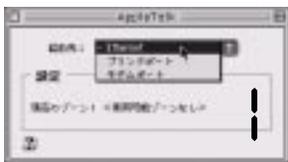
2台のMACをつなぐこと、インターネットにつなぐこと、この2つの理由から、MN128-SOHO/DSU (NTT-TE東京社)というルータ付きのターミナルアダプター(TA)を選びました。別に宣伝費をもらっているわけではありませんが、設定が簡単なのと、Ethernetポートが3つ、アナログポート(電話やFAXモデムをつなぐもの)が2つついていることもその理由でした。

インターネットにつなぐ方法は、MACのモデムポートとTAとをつなぐのと、ルータを使ってEthernet経由でつなぐ方法とがあります。LANを組み、さらには、インターネットにも使えるルータ付きのTAがMN128-SOHO/DSUだったのです。また、ルータを使うのは、今まで使っていたFAXモデムを利用するためでもあったのです。インターネットはEthernetで、FAX送信はモデムポートで、というように使い分けができるのもこれを選んだ理由です。

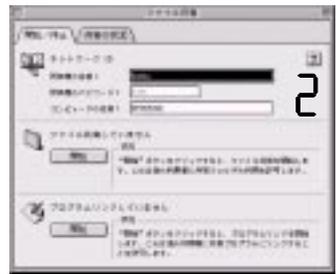
ルータを使ってインターネットにつなぐと、あのモデム特有の「ピー、ガー」という音もなしにつながります。また、設定次第で回線の自動切断をしてくれます。さて、インターネットへの接続の話はこれくらいにして、本題に戻りましょう。

2台のMACをつないでファイルを共有したり、データを共有する方法を述べたいと思います。もう知っている方、すでにやっている方には、退屈な記事になるかもしれませんが、ご勘弁を。

まず、コントロールパネルの中のAppleTalkを開きます(図1)。そして経由先をEthernetにします。次に再びコントロールパネルの中からファイル共有を開きます(図2)。所有者の名前、所有者のパスワード、コンピュータの名前を入れます。パスワードはそんなに凝る必要はありません。次に「ファイル共有していません」の所の「開始」ボタンと「プログラムリンクしていません」の所



の「開始」ボタンを押すと、アイコンも図3のように変わります。これでファイルとプログラムの共有設定ができました。もう一台のMACも同じように設定します。



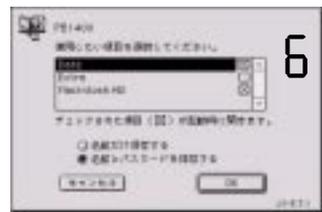
(ついでにインターネットにつなぐところも設定しておいた方がいいでしょう。コントロールパネルの中からTCP/IPを開き、経由先をEthernetに、設定方法をDHCPサーバを参照しておきます。)



さて、次にアップルメニューから「セレクト」を選びますと図4のようになっています。普通はこれはプリンタの選択に使うものですが、今回はLANを組むために使います。プリンタのアイコンと一緒に



にAppleShareのアイコンがあります。これを選択しますと、「ファイルサーバの選択:」の欄にLANでつながっているMACの名前が現れます。これを選択して、ダブルクリックしますと図5が現れますので、OKをクリックします。図6になりますので、マウントさせたいボリュームを選んでOKをクリックしますと、デスクトップに前回の記事の図のようにつないだMACのボリュームがマウントされます。



後は、普通にデータを使うことができます。妻の使っているMACには、プリンタドライバが一つも入っていません。プリンタが一つしかないのも、いちいちケーブルをはずしたり、つけたりというのは煩わしい作業です。切替器を使うというのも一つの方法ですが、プリントアウトは、もう一つのMACからしています。もし、これがローカルトークでしたら、切替器を使いますが、Ethernetですので、速度は問題ありません。そこで、今の方法を採用しているのです。2台のMACを持っている方、ぜひ家庭内LANをお始め下さい。

# 日本語訳聖書翻訳比較研究

能城一郎

## 佐藤研「ルカ福音書」岩波書店

新約聖書翻訳委員会による翻訳の特徴は数多いのですが、今回は、以下の3点を紹介します（「凡例」を参考）。

- (1) 邦訳上必然となるような敷衍部分は[ ]に入れて、それが訳者の責任における挿入部分であることを示した。
- (2) 旧約聖書の引用部分は、太字朝体で示してある。
- (3) 小見出しの文面とその範囲は、UBS4版、あるいは「新共同訳」のそれを参照しているが、最終的には、訳者の作成になるものである。

以下、「ルカ福音書 4 :16 ~ 22」を引用してみました。

### 小見出し：郷里における拒否

16 さて、彼は、自分の育ったところであるナザラにやって来た。そして、自分の習慣に従って安息日に会堂に入り、朗読するために立ち上がった。17 すると、預言者イザヤの書が彼に与えられた。そこで彼はその書を開いて、[次のように]書いてある箇所を見つけた。

18 **主の霊が私の上に[臨む]、主が私に油注がれたゆえ、[それは、] 乞食たちに福音を告げ知らすためである。主は私を遣わされた、[それは、] 囚われ人らに解放を宣べ伝えるため、かつ、盲人らに視力の回復を[宣べ伝える]ため、打ち砕かれた者らを解き放って遣わすため、**19 **喜ばしき主の年を宣べ伝えるためである。**

20 そして、その書を開じて、下役の者に返し、腰を下ろした。すると、会堂にいるすべての者の目が、彼に釘付けになった。21 そこで彼は、彼らに対して語りはじめた、「この聖句は、今日あなたたちの耳のうちで満たされた。」22 すると皆は彼を讃めそやし、また、彼の口から出て来る恵みの言葉に驚いていた。しかし、彼らは[くり返し]言った、「この者はヨセフの息子ではないか。」

「新共同訳」を見てみましょう。

### 小見出し：ナザレで受け入れられない

16 イエスはお育ちになったナザレに来て、いつものとおり安息日に会堂に入り、聖書を朗読しようとしてお立ちになった。17 預言者イザヤの巻物が渡され、お開きになると、次のように書いてある箇所が目にとまった。18 「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれて

いる人を自由にし、19 主の恵みの年を告げるためである。」

20 イエスは巻物を巻き、係の者に返して席に座らされた。会堂にいるすべての人の目がイエスに注がれていた。21 そこでイエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。22 皆はイエスをほめ、その口から出る恵み深い言葉に驚いて言った。「この人はヨセフの子ではないか。」 「[くり返し]言った(22節)」は、敷衍部分で原法の理解に多いに助けになるところです。かつては「永井訳」「詳訳聖書」「岩隈訳」に原文の意味を探してましたが、これからはこの翻訳がそれにとって代わることになるでしょう。「乞食」「讃めそやし」等、強烈的な翻訳に驚いた方は「福音書(参照)」の「訳者の独り言 佐藤研」を読むと訳の奥の深さが理解できます。以下、その引用です。



共観福音書の翻訳で最も苦労したのは、ひとつにはどこまで原文への忠実さを貫き得るか、という点。従って、直訳調の訳文は意図的である。無骨さ、素朴な反復などが、逆にテキストの新鮮な側面を掘り出してくれば、この方針も報われよう。

次に、福音書の訳語調整の問題。マタイとルカが、マルコ福音書を現実に彼らの机の上に置いて、それに修正を加えつつ書き写したことは、現在では定説である。従って、それらの相互関係をできる限り正確に訳出することに努めた。

また、**「新共同訳」**を読むと、さらに、訳者の「共観福音書問題」への造詣の深さに痛感させられることでしょう。JB2に「ギリシャ語本文の福音書平行記事」の表示プログラムを現在追加中ですが、この文献を利用して「Q資料」もJB2で見られるようにしようと考えています。先月、東大の関根清三教授の計らいで佐藤研先生にお会いし聖書翻訳等についてお話する機会を設けて頂きました。その時、この岩波の翻訳が1999年には、CD-ROM出版の予定とお聞きしました。また、「J-ばいぶる」とリンクできるようにデータを作成して下さるとの朗報も聞く事が出来ました。リッチ・テキストでのデータ作成という過酷な作業となるでしょうが、多いに期待しています。このCD-ROMは、PCによる聖書研究のパラダイム・シフトの一物となること間違いなしです。

### 参考文献

- 新約聖書翻訳委員会訳 新約聖書 ルカ文書 岩波書店 1995年10月初版 (佐藤研:ルカ福音書 荒井献:使徒行伝)  
 新約聖書翻訳委員会訳 新約聖書 福音書 岩波書店 1996年11月 (佐藤研:マルコ、マタイ、ルカ 小林稔:ヨハネ)  
 佐藤研『Q文書』現代聖書講座 第2巻「聖書学の方法と諸問題」日本基督教団出版局 1996年10月25日

# 0 傳 揚 承 継

## 織田昭ギリシャ語辞典電子化

この「ギリシャ語小辞典」は、本としても出版されます。CBECで作成させて頂いたデータ(リッチテキスト)は、印刷の方でも使用しますので、そのあたりの技術面等や版權処理のミーティングを今月末に大阪聖書学院にて持つことになっています。(能城)

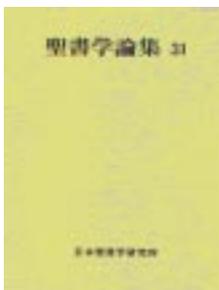
JB2「データ修正」プログラムが出来ました。

<http://gospeljapan.com/cbec>



CBECでHPにダウンロードできます。数分間で、「日本語文法解析の表記ミス」が書き換わります。(能城)

JB2、JB3ユーザーへ、読書のおすすめ



「聖書学論集31」日本聖書学研究所 1998年2月

5つの論文が掲載されていますが、聖書翻訳に関して興味深い以下の2論文をお勧めします。

関根清三『応報の神は存在するか 贖罪思想の系譜と争点』

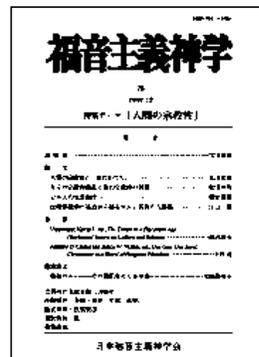
p.25～26にかけての詩51篇の翻訳の記事は、「文法」のみならず

「倫理」「神学」に非常に興味深いものです。

小林稔『命を受けるため』(ヨハ20:31)はなぜアリストでなく現在幹なのか』筆者は、岩波の『ヨハネ福音書』の訳者でもあります。jb2を使い文法問題を自分でもチェックしてはいかがでしょうか。

(能城)

インターネット上の「論文掲載」が学术界で市民権!



「福音主義神学」28 特集テーマ「人間の宗教性」1997.12 日本福音主義神学会

本書の「会員刊行文献目録」の「論文」の項目に安黒務「J. D. G. ダンの『イエスの御霊に関する一考察』」(インターネット公開との紹介文が掲載されてました。

「聖霊論関連の日本語で読める論文が少ない中で安黒氏(関西聖書学院)の論文は貴重な存在です。これが、インターネットでだれでもが読めるようになっていきます。これは、日本の神学界では、初めてのことでないでしょうか?(能城)

CBECの今後の活動について

第36号で「教会とコンピュータ」を終了させて頂きますが、PCによる「聖書研究」関連の情報がほしいとの要望がCBECに寄せられています。「教会とコンピュータ」誌、以後の私たちの活動について、次号と最終号でお知らせ致します。

「聖書クイズ王決定戦」が「百万人の福音」誌で紹介されました。(以下記事抜粋)

「いわゆる聖書カルトクイズ。教会学校から神学者まで分けられた5レベルに二百問づつ。CS等でやると、聖書を知らなかったことがバレてしまって、その屈辱をバネに細部にこだわりながら楽しく聖書を読む励みにもなる。同額のウィンドウズソフトもあり...」



お近くのキリスト教書店でも購入できるようになりました(ソフトは通販のみ)。まだのかた、買い足しのかた、書店ヘレッツゴー!

### 編集後記

先月は祖父の話をしたましたが、今月は父の話です。父は41才の若さで召天しましたが、英語が堪能で、美しいテナーヴォイスの持ち主でもありました。説教のために、いつも新聞記事などを切り抜いてスクラップブックに貼り付けていました。写真もよく撮り、子供たち一人一人のためにアルバムを作ってくれました。テープレコーダ(オープンリール)も好きだったお陰で、今でも父の肉声を聞くことができます。今流に言えば、正に「マルチメディア」な人であったわけで、息子がパソコンで遊んでいる姿を、こちらもまた天国で羨ましくながめていることでしょう。

編集者 堀川 寛 (三滝グリーンチャペル牧師)  
住所 広島市西区三滝本町2-10-24  
FAX 082-237-7766

[horikawa@ma1.seikyuu.ne.jp](mailto:horikawa@ma1.seikyuu.ne.jp)です。よろしく。

購読料などの振り込みは、郵便振替口座

聖書コンピュータ研究同好会 00100-4-146775